

-大学院歯学独立研究科-
第 86 回 中 間 発 表 会 プ ロ グ ラ ム

大学院学生等が、これまでの研究成果を発表します。
どなたでも聴講できますので、多数の参加をお待ちしております (聴講申込不要)

場 所 : 実習館 2 階 総合歯科医学研究所セミナー室

日 時 : 2017 年 7 月 26 日 (水) 17 時 25 分 開会 (中間発表 1 名)

2017 年 7 月 26 日 (水) 17 時 25 分 開会

No.	発表区分・予定時間	演題名・発表者	審査委員
	17:25	開会挨拶 高橋研究科長	
1	[中間発表] 17:30~18:00 司会:大須賀教授	「吸収性縫合糸 Vicryl®に対する皮下組織の反応」 中安 喜一 2年 健康増進口腔科学講座 口腔健康分析学	主査:平賀 准教授 副査:吉成 教授 各務 教授

発表内容の要旨(課程博士)
Abstract of Presented Research (For the Doctoral Course)

学籍番号 Student ID No.	ID#G 1509	入学年 Entrance Year	2015 年 Year
(ふりがな)	なかやす	よしかず	
氏名 Name in Full	中安	喜一	
専攻分野 Major Field	健康増進口腔科学講座 口腔健康分析学		
主指導教員 Chief Academic Advisor	大須賀 直人 教授		
発表会区分 Type of Meeting	中間発表会・大学院研究科発表会・松本歯科大学学会 Midterm Meeting / Graduate school research meeting presentation / The Matsumoto Dental University Society		
演題名 / Title of Presentation			
吸収性縫合糸 Vicryl® に対するラット皮下組織の反応			
発表要旨 / Abstract			
<p>【緒言】医療の現場において、生体の内部に用いられる縫合糸はその用途によって多くのものが供給されている。歯科口腔領域においても時として外科処置における縫合時に吸収性縫合糸が用いられる。これら多くの吸収性縫合糸は化学的に合成されており、その代表的なものとしてグリコール酸/乳酸ポリエステル(ポリグラチン)による縫合糸がある。この吸収性縫合糸は、その名の通り生体内で徐々に加水分解の後吸収によって消失するとされている。しかし、その臨床例の中には応用部に病理学的な諸変化がみられたとの報告もある。そこで吸収性縫合糸に対するラット皮下組織での反応を病理組織学的に追究した所、若干の知見が得られたのでその概要を報告する。</p> <p>【材料と方法】実験にはWister系ラット(8週齢、雄性)8匹を用い、ベントバルビタールによる腹腔内注射による全身麻酔下において、その背部皮下組織内に吸収性縫合糸 Vicryl® (V)(Johnson & Johnson)を束状にして埋入した。その後、最長6か月まで埋入部に増殖した組織を病理組織学的に検討した。</p> <p>【結果】2週例では、埋入部には核が円形または楕円形のマクロファージ(Mφ)が集簇していた。Mφの集塊はほぼ円形または複数の円が重なった形を呈していた。この集塊の中央部には多くの白く抜けた大きさも形も様々な空隙があった。さらに異物巨細胞がMφの集塊の中に散見された。これらの細胞の集塊の周囲には線維芽細胞と膠原線維が薄い被膜を形成していた。1か月例における埋入部のMφの集塊の外形は2週例とほとんど変わらず、中央部には白く抜けた大きさも形も様々な空隙もあった。異物巨細胞は2週例よりも増加していた。Mφの集塊の周囲の線維性被膜は、2週例のものともあまり変化していなかった。3か月例における埋入部には細胞質が淡明化したMφが集簇していた。Mφの集塊の中に異物巨細胞が多少あった。さらにMφの集塊の中には線維芽細胞が入り込み、その一部は塊を形成していた。6か月例では埋入部に形と大きさが不定形のMφの集塊が小さくなっていた。その集塊の周囲には線維芽細胞の増殖と膠原線維形成があり、一部では瘤状を呈していた。</p> <p>【考察】吸収性縫合糸の生体内での挙動やそれに対する組織反応の詳細は明らかにされていない部分がある。今回検討した吸収性縫合糸Vに対してはMφ主体の肉芽組織の増殖があった。これは生体内で一部が貪食によって処理される為、Mφや異物巨細胞が出現するものと推察された。これらの細胞の出現や一部での膠原線維形成による瘤状構造などの出現は、臨床での報告例と合致する。今後は他種の吸収性縫合糸についても同様に検討したい。</p>			